



# れんげ畑

鴻巣市立鴻巣中央小学校  
令和3年1月号

学校教育目標  
キャッチフレーズ  
ホームページ

【知】友と学ぶ子 【徳】心の豊かな子 【体】体をきたえる子  
「はきはき・にこにこ・きびきび」  
<https://kochuo-e-konosu.edumap.jp/>

児童数373人

## やっぱい牛はのろのろと歩く

校長 清水 励

新年あけましておめでとうございます。昨年中は、保護者、地域の方々におかれましては、例年以上の御理解と御協力、また御支援をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。

令和3年がスタートしました。新しい年の始まりは、心機一転、これから始まる1年に好事を期待し、清々しい思いで迎えるものだったかと思えます。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の勢いが衰えず、メディアからは連日「過去最高人数」という単語が目や耳に入ってくる中、やはり常に心の中に、よどんだ重い影を感じながら新年を迎えたのは、私だけではないのではないのでしょうか。しかし、あまりに心配しすぎて不安ばかりの中で過ごすことは、心の健康上、大きな問題があります。「不安な思い」は事実としてしっかりと受け止めつつ、「自分にできること」「自分がすべきこと」を、無理しすぎずに冷静な判断とともに行うことに集中してまいりたいと思えます。

さて、先月の学校だよりでも触れましたが、1月中に、お子さんへ「一人一台のPC」を配布（貸与）する予定であります。このPCは学習用端末としての貸与であり、子供たちの「学びの改善」のための貸与です。しかし、PCが配られてすぐに「学びの改善」が図られるというような簡単なものではありません。子供たちが、このPCという「新たな文房具」を日常的に当たり前のよう使用するようになるためには、子供たちだけでなく、私たち教職員にそれなりの時間と様々な試行錯誤が必要となります。その間、様々なトラブルや対応すべき問題が起こることも予想されますが、そこに「学ぶ機会」があることを忘れずにいたいと考えております。あまりがんじがらめに使用方法等を規制することなく、「とにかく使ってみる」という過程を大切にしながら、子供たちと教職員がともに学ぶ事が、「実は遠回りのようで一番の近道」だと考えております。PCは、家庭への持ち帰りも行う予定でありますので、後日「御家庭へのお願い」や「同意書」等を配布いたしますので、内容の御確認をよろしくお願いいたします。

高村光太郎の「牛」という詩があります。全文は約1350文字のやや長い詩で、書き出しの部分は次の一節です。

牛はのろのろと歩く  
牛は野でも山でも道でも川でも  
自分の行きたいところへは  
まっすぐに行く (後略)



牛は、決して取り立てて賢いわけでもなく、器用でもなく、素早いわけでもないけれども、自然の中の一部である美しさ、愚鈍だけれども自分の進むべき方向へ確実に一步一步進んでいく力強さがあり、その姿を人間のあるべき姿の一つとして描いた詩だと思えます。

今年は丑年（丑年）。私たちも牛にならって、進むべき方向へ、足を取られながらも一步一步力強く歩みを進められる一年にしたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。